



東俣野特別支援学校

電話 045-851-9631

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/higashimatano/>

「ふれあい」「かかわりあい」がいっぱいの学校に

学校長 仲程 剛

平成31年度（5月からは令和元年度ですね）がスタートしました。

入学、そして新しい学部や学年への進級おめでとうございます。新しい年度になったということで、気持ちも新たに、それぞれの今年の目標に向かってスタートしましょう。

私は今年度、本校の学校教育目標である「えがおいっぱい ふれあいいっぱい あたたかさいっぱい」いうキャッチフレーズから、「ふれあい」という言葉に注目してみたいと思います。

「ふれあい」という言葉は、人と人との関係の中で使われ、お互いの顔が見える関係が感じられます。「ふれあう」ためには、まずは、時間や場所を共にする機会が保障されなければなりません。私たちは、誰かと一緒にいるときや誰かと関わる時に「心地よい」と感じることがあります。それは、動作や言葉のやりとりによる体験としての「ふれあい」だけでなく、お互いの想いが伝わりあい、分かりあうことによる「ふれあい」でも感じることができます。

もちろん、感覚の過敏さ等で直接ふれられるのが苦手だったり、気持ちのすれ違いがあったりして「ふれあい」の中で嫌な思いをしたりすることもあります。それも含めて、人が人と「ふれあう」ことは自然な姿だと思います。それは、やはり人が一人で生きていくことはできない社会的な動物だからではないでしょうか？

人間は「ふれあう」ことの中で、生きる喜びを味わい、同時に何かを得て成長していくことができるのだと思います。だからこそ「ふれあう」ということを大事にしていきたいです。

そして「体験としてのふれあい」から、「心と心のふれあい」、さらには



「社会とのふれあい」に広がっていければと思います。

また、「ふれあい」という言葉には、「～しあう」という表現が入っていることにも注目したいと思います。つまり、「～しあう」という言葉の中には、決して一方的でない「人として対等」な関係であることが含まれているということです。もちろん、子ども同士だけではなく、子どもと大人との関係であっても同じです。子どもと教職員、子どもと保護者、教職員と保護者が人間として対等な関係を築く中で、それぞれの役割をきちんと果たしたいと思います。

今年度の東俣野特別支援学校では、「ふれあい」の場を大事にしたいと思います。そして、その中で、子ども同士だけでなく、教職員と子ども、保護者と子ども、教職員と保護者、地域と学校等、それぞれがお互いに「～しあう」関係を大事にしていければと思います。

今年度もよろしくお願ひします。